

立教大学文学部特任教授

上田 修一
うえだ しゅういち



団塊の世代であり、読書の記憶は、「ユニコーン」『ああ無情』からはじまる講談社世界名作全集や偕成社団記全集にさかのぼる。絵本は覚えていないし、図書館には行かなかった。中学生の頃、通学路の商店街に小さな書店があり、毎日のように帰りに寄っていた。

「なぜ図書館のヘビィユーザーとなったのか」

夜中によやく帰宅したら、揺れの激しい本棚から数千冊がこぼれ落ち、本の山は崩れていた。その後の暗く不安な日々、本の片付けをし、半分以上を処分した。定年も近づいていたので、蔵書についての意識が変わった。本を増やすのは最小限にしようと思った。

図書館の本がインターネットで検索できるようになり、次には、予約も可能となった。読みたい本があれば、近くの図書館になくても、自宅から同じ区内の他の図書館にある本を予約でき、数日間地元図書館に届く。大学の図書館も同じである。今は、読もうと思っ



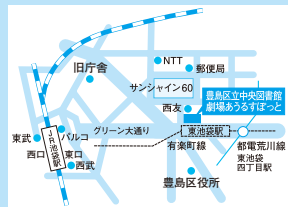
と し ょ か ん つ う し ん と 書 館 通 信

トピックス

- 巻頭言 立教大学文学部特任教授 上田修一……………1ページ
- 古い本、新しい話 尾崎真理子……………1ページ
- 図書館と私 豊島区立栗鴨図書館長……………2ページ
- 生涯の一冊 絵本作家 齋藤慎……………2ページ
- この本カフェ……………2ページ
- 豊島区とミステリー 文芸評論家 権田萬治……………3ページ
- あうるすぽっとからのお知らせ……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館開館情報……………4ページ



発行 ● 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-0844
電話 ● 03-3983-7861
FAX ● 03-3983-9904
ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
発行日 ● 平成28年7月



新航路 [39]

豊かな子ども読書活動のために ～豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)～

豊島区子ども読書活動推進計画(第三次)(28年度から32年度)を策定しました。

第三次計画は第一の重点目標に、子どもが生まれた時から身近に本や読書がある環境をめざして、家庭での読書活動を支援することを掲げました。子ども家庭支援センターや保育所・幼稚園に加え、保健所の「乳幼児健診」や新庁舎4階の「子育てインフォメーション」の活用など、乳幼児と保護者を一体的に支援していきます。

第二の重点目標には、最も読書離れの傾向がみられる中高生に、少しでも本の世界に親しんでもらうことを掲げました。中高生向けブックリスト「オスバラ」や「ピブリオバト

ル(知的書評合戦)」、「ブックトーク」の実施に加え、「読書通帳」の配布や「ポップアップカードを作るワークショップ」などの中高生が参加しやすい行事を実施していきます。また、中高生からも様々なアイデアを募集したいと思っています。

超高齢化時代をむかえ、読書活動に適齢期はないと思いますが、その一方で子ども時代にしか味わえない、出会えない読書の楽しみがあるのも事実だと思います。子ども自らが読書の魅力を発見する機会の提供と読書環境の充実を図っていきます。計画は、図書館やホームページでご覧いただけます。

古い本、新しい話 ⑧

ル・コルビュジエと『うるわしき日々』

尾崎 真理子

上野の国立西洋美術館を含むル・コルビュジエの建築作品群が、この夏、ユネスコの世界遺産に登録される。それで思い出す作品がある。第一回谷崎潤一郎賞に輝いた昭和の名作「抱擁家族」、その一家の30年後を描いた、小島信夫氏の『うるわしき日々』である。

1996年9月から読売新聞の朝刊で始まったこの連載小説の主人公、三輪俊介は、作者自身の分身のような老作家であり、翌月、池袋のセゾン美術館で「ル・コルビュジエ展」が始まると、小島氏もさっそく観に行き、作中のエピソードに取り込んだのだ。

ミケランジェロの設計したへ形形の寄せ集めのような古い建物の絵はがきから、独自の「黄金比」を着想したとされるコルビュジエは、ロンドンの警察官の身体サイズなどから割り出した「物尺」＝モジュールを用いて、快く美しい空間を次々に実現した。その軌跡を展示で確認する三輪俊介と、同行する友人の大学教授との会話から立ちのぼる、作者の人柄がしのばれる絶妙なユーモア。俊介によると、上野の西洋美術館は「世界中の海を旅する船をイメージして作られていくことで、地表から浮かんでいるように見えるはず」。しかし、マルセイユの集合住宅の模型を眺めるうち、ヘルビュジエの影響で、日本の一流といわれる設計者たちが雨漏りのする住居を作ったのは、どうしてだろうかと、積年の恨みも湧き上がる……。

俊介の家、すなわち小島氏の自宅の平らなコンクリートの屋根は、実際、深刻な雨漏りに長年、悩まされていた。そうした細部まですべて、氏の作品も生涯も、今読み返せば、20世紀のかけがえない記憶遺産だと思われてくる。

当時、文芸記者として経験の浅かった私は連載のふつつかない担当者であり、要領も悪く、コルビュジエ展の会期中、ついに池袋まで行けぬまま最終日を迎え、ほろをかんだ。そのセゾン美術館も99年に閉館。小島氏が亡くなってこの秋で10年になる。

(読売新聞編集委員)

1947年生まれ。慶應義塾大学大学院修了。慶應義塾大学文学部教授を経て、現在立教大学文学部特任教授。著書は、「図書館情報学」(勤草書房、2013年)など。専門は図書館情報学。平成27年7月より豊島区図書館経営協議会会長。

生涯の一冊

(40)



■『ぶたのたね』
佐々木マキ/作・絵
絵本館 1989年

絵本作家
さいとう まき
齋藤 槇

1981年、豊島区生まれ。
武蔵野美術大学日本画学科卒業。
趣味は動物園、植物園通い、ヨガ。
著作に『ペンぎんたいそう』、『虹色の
きもの図鑑』(ともに福音館書店刊) などがある。新作は『さくよ
さくよ』(福音館書店 ちいさなかがくのとも7月号)



『ぶたのたね』

絵本作家になるきっかけをくれた絵本がある。佐々木マキさんの『ぶたのたね』だ。足の遅いおおかみが、なんとおぶたを食べるべくふしぎな種を蒔き、ぶたを収穫しようという、とてもシュールなお話である。情けないおおかみの表情が良く、普段は悪役で登場することが多い生き物である、おおかみを応援したい気持ちになる。情けないおおかみの作戦はうまくいかなくて、読むたびにどこかしようななぜか嬉しいような気持ちになっていた。私は「好きなものだけを」とことん〜という性格もあつ

て、とにかくこの絵本ばかりを毎日毎日味わった。小学校高学年にもなると、暗記してしまうほど読み込んだ絵本からもしだいに離れて行ってしまった。友人との遊びや部活に夢中で、いつのまにか絵本から卒業してしまったのだ。しかし高校時代に再びこの絵本と出会うことになった。部活の帰りに友人と立ち寄った書店の絵本コーナーで、『ぶたのたね』を見つけた。「この絵本最高なんだよ〜」と友人に紹介し、友人もまた幼いころに大好きだった絵本を教えてくれた。それから私たちは毎日この絵本を教えるの絵本コーナーで道草をして帰るようになった。絵本が私の深いところで光る宝物のような存在であったことに気づいた。大人になっても潜在的に覚えていて、人の核になるような作品を作るなんて

すてきな仕事だと思った。これがきっかけになり、絵本の作り手になろうと決めたのだ。それから様々な幸運にもめぐまれ、絵本の作り手としてスタートすることができた。自分のなかにある「何かおもしろいもの」「や」「美しいもの」を子どもも大人も楽しめるような本にまとめることは、とても面白い作業だ。私はこの仕事をとても気に入っている。

『ぶたのたね』は絵本作家としての私のたねであった。子ども時代にも『ぶたのたね』と出会い、それがたね(自分の核)となり、本人が忘れていたうちに発芽し、どんどん育っている。どんな実がみえるのか楽しみです。その実を、あのお腹をすかせたおおかみに食べさせてあげられたら、と思う。



図書館と私 28

巣鴨図書館 館長

新米館長の心得!!

草花を上から見ることはあっても、樹木を上から見ることは滅多にはない。

花粉症の家族がいる我が家では、それが下火になる5月以降は、月に数度、自宅のベランダで布団を干す。日差しが強くなり、緑のコントラストが1年で最も強いと思われる5月は私の好きな季節の一つである。自宅の狭い裏庭には、柿、梅、コケ桃などの果樹(袖子も最近植えたが今一つである)のほか、百日紅、キンセンカや夏ツバキを初めてとする花樹が所狭しと植わっている。これらの全てではないが、布団を干す手を休めて柿や梅の木を上から眺めてみると、その形や葉の重なり具合の美しさに感嘆する。この美しさを知っているのは、鳥類だけなのか。

私は、自宅から歩いて十数分の場所に畑を借りて家庭菜園を営んでいる。この場所に借りて4年目である。その前に借りていた場所を地主さんが手放すことになったためである。

今の畑は前の所と比べると土質が全然違って乾燥している。生えてくる雑草や害虫の種類も違う。同じ野菜でも、前の畑の栽培方法では上手く育たず、専門誌を購入して研究したりする。また、同じ場所を借りている隣の人に聞いたりする。どういう訳か、こういうところには畑のプロやセミプロが必ず一人はいて、こちらのやり方が雑拙だと、我慢できずに声をかけてくれる、手伝ってくれる。有りがたや!

2年前から縁あって図書館勤務をしている。司書資格は、まだない。図書館の世界もIT化だけではなく、時代の流れとともに少しずつ変わっているようだ。おかげで、この4月からは、直営となった自館でカウンターにも立つこととなった。本を図書館で借りたことはあるが、貸したことはない。元行政マンがどこまでできるか。利用者や職員を範にして、今日もまたカウンターに立つ。



背中がゾクッとするのは、体が緊張してアドレナリンという物質が分泌され、それに反応して血管が収縮するため。これは、ゾクゾクとした感覚の医学的な説明だが、交感神経を活性化するためにも、リラックスとゾクゾク・ゾクゾクの両方があったほうがいい。スポーツに限らずそうした効果をもたらすのも、読書の利点。暑い夏は、運動不足になりがち。さあ、まずはこの本カフェの本を読もう。

7杯目

背中がゾクッとする本

書名『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』
廣嶋玲子/著 jyaiya/絵 偕成社 2013年

駄菓子屋銭天堂の主人、紅子さんが、回した福引用の箱から出てくる玉を見て「お客が来てくれると、ようござんすねえ」と、不気味につぶやく。そこから銭天堂ワールドが始まる。売られている駄菓子も「型めき人魚グミ」から「クッキングツリー」など、奇妙な名前ばかり。
呼ばれるようにしてお店にやって来る、悩みを抱えたお客たち。買ったものには、なんと必ず注意書きが添えられているのだ。それをよく読んで守る事!何よりもそれが大切だ。幸せと不幸の分かれ道が待っている銭天堂の駄菓子、おひとついかがですか。 [佐藤 勝美(さとう かづみ)]



書名『新釈 四谷怪談』
小林恭二/著 集英社新書 2008年

梅雨明けが近い深夜。夜泣きの私を背負った母は、看板を架け替え中の映画館の前を通りかかった。裸電球の光に、泥絵具の原色が生々しく浮かび上がる。母の背に顔を押し付け、夢中でしがみついた。それが、お岩さまとの初めての出会いだった。夜の暗さが楽しいと思えるようになったころ、無意識に避けていたお岩さまを、明るい場所に引き出したくなった。その手助けをしてくれたのが本書である。舞台やスクリーンで、幾多の名優が演じ、磨き上げてきた鶴屋南北の代表作。強力なパワーを繰り出すお岩さまの秘密が解き明かされていく。 [三瓶 裕雅(さんぺい ゆうか)]



書名『高野聖』 泉鏡花/著 角川文庫 2013年

「高野聖」とは、全国を勧進(くわんじん)遊行して歩く高野山の僧のこと。行脚の旅をする僧・宗朝と同居することになった主人公は、僧から不思議な話を聞く。信州の山中で蛇やヒルに会い、やっとの思いで里にたどり着き、どうにか得た一夜の宿。その女主人の妖艶さに戸惑い、旅の疲れを癒す水浴の際に女主人が全裸にまでなったことで、僧の心は激しく乱れた。ところが、女主人に息を吹きかけられその妖力でケモノになってしまった男たちの話を聞き、ゾクゾクとして、僧は一目散に山からおりたという。理性をたもちながら揺れ動く僧の心理が幻想的に描かれ、また耽美的な文語体も手強い、背中に妙な冷たさを感じる作品だ。 [辻 宏子(つじ ひろこ)]



寄稿者はしほまコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。人類学者佐藤社広氏のご指導をいただきながら、毎回テーマに合わせて文学、児童書、評論や科学の分野のお薦め本を1冊紹介しています。

豊島区とミス터리

全4回

第一回 乱歩の現代性



権田 萬 治

権田萬治 文芸評論家。元専修大学文学部教授、前ミス터리文学資料館館長、著書に『日本探偵作家論』(推理作家協会賞受賞)、新保博久氏と共同監修した『日本ミス터리事典』(本格ミス터리大賞受賞)、『松本清張 時代の闇を見た作家』(大衆文学研究賞受賞)などのほか近著に『謎(ミステリー)の楽園』、『ミス터리批評55年』がある。

豊島区ゆかりの推理作家といえば、何といても江戸川乱歩だろう。

乱歩はもともとは明治二十七年三重県名張市の生まれだが、作家になる前に多彩な職業遍歴を重ね、転職の度にどこに住まいを変えていた。上京して作家になった後もたびたび引っ越しているが、昭和九年七月東京の芝草町から池袋三丁目に移居、それが終の住処になった。昭和四十年に亡くなり、以後五十年にもなるのに、その作品は今なお多くの人の心を捉えている。

乱歩の作品は、「二銭銅貨」や「心理試験」をはじめとする初期の優れた短編群のほか、怪人二十面相などの少年ものや『蜘蛛男』や『黄金仮面』などを始めとする数多くの通俗長編など多彩だが、私が大人になって再読して改めて感銘を受けるのは、やはり「二銭銅貨」から「屋根裏の散歩者」「人間椅子」を経て「押絵と旅する男」に至る初期の短編群である。

乱歩は閉ざされた暗闇の空間が好きだった。乱歩は三重県の鳥羽の造船所に勤めていたころ、勤めがいやで呼びに来ても気が付かれぬように合宿所の押入れに入っただけで襖を閉め、暗闇の中でひとり夢想に耽っていた時期があった。

「屋根裏の散歩者」という短編はそんな時に「押入れから天井裏に場所を移して散歩したら面白がる」と空想したことがきっかけで、出来た作品だというし、「人間椅子」は、応接間の椅子の中に人間が潜んでいて、その上に男や女が腰をかけたら怖いだらう」という考えから生まれた短編だと語っている。

人間には生まれる前に母親の胎内で安らかにまどろみながら夢を見ている状態への憧れがあるという。精神分析学では胎内幻想という方があるが、乱歩の優れた作品には、この願望が一脈通じる、狭く閉ざされた暗闇への憧れと恐怖があるように思われる。

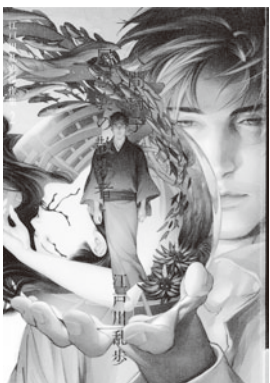
乱歩は、「レンズ嗜好症」というエッセイで、レンズを通して平凡な日常の現実がまったく異形の世界に突然変貌することに強く惹かれたことを告白しているが、こういう一種の「覗き」趣味とこの胎内幻想とが融合した時に、「屋根裏の散歩者」や「人間椅子」や「押絵と旅する男」のような乱歩でなければ絶対に書けない個性的な優れた作品が生まれたのだと私は思っている。

もう一つが洗澤龍彦が「人形愛」と名付けた、生臭い生身の人間の肉体より人工的な人形の方にかえて純粋な愛を感じる乱歩独特の恋愛観である。「人形」という工

ツセイで、乱歩は「人間に恋はできなくとも、人形には恋ができる。人間はうつし世の影、人形こそ永遠の生物」といい切っているが、「人でなしの恋」や「押絵と旅する男」の人形や押絵に造形された女性の魅力の虜になった男を描く幻想小説が私たちに強い感動を与えるのは、そのプラトニックな純粋性にあると思う。

乱歩の猟奇的な「屋根裏の散歩者」や「人間椅子」あるいは長編の『陰獣』などには、ちよっとアブナイ人間も多く登場するが、実はそういう人間的な要素は多かれ、少なかれ私たちの中にあるものなのだ。私はこういう人々を描く乱歩の作品に、ネット社会に身を置いている現代人の姿が微妙に重なって見えて来る。

現代の若者がインターネットの仮想空間に取り憑かれて昼夜が逆転し、引きこもりになったりすることが多いといわれるが、乱歩はまさに今でいうオタク族の元祖ともいっべき存在だったのではないかと気がしてくるのである。その意味で乱歩は今も新しいのだ。戦後、ミステリーの流れは乱歩から清張へと大きく変わったことは否定できないが、暗闇の中の夢想を結晶した乱歩の作品は今もその魅力は決して失われていないのである。(次号に続く)



『江戸川乱歩傑作集2 人間椅子 屋根裏の散歩者』 江戸川乱歩 著 リブレ出版 2015年

あうるすぽっとからのお知らせ

◆近藤良平・コンドルズ 「にゅ〜盆踊り」

7月16日(土)・17日(日) 17:30~(会場:池袋西口公園)

池袋、夏の風物詩、近藤良平・コンドルズと大盆踊り大会!!
 昨年の参加者数は過去最高の約5,500名!
 9回目となる今年、初めて2日間にわたっての開催が決定しました。
 子どもも大人も思わず笑ってしまう仕掛け満載の楽しいお祭りです。
 熱い熱い夏の夜を是非一緒に!(参加無料・申込不要)



撮影: 満井直志

◇あうるのまちのあそびばシリーズ(劇場ホワイエ展示)◇

「王様はつぱが舞う季節」 「みんないるまち/巨大!はだかの王様」

7月15日(金)~8月30日(火) 10:00~17:00 (会場:あうるすぽっとホワイエなど)

あうるすぽっとの劇場ホワイエに“あそびば”が登場!シンガポールのアーティスト pang による、たくさんの葉っぱを作って遊べる参加型の作品や、8月公演『はだかの王様』にちなんで、段ボール彫刻家・本濃研太の大きな「王様」がホワイエに出現します。(参加無料・申込不要)



昨年のホワイエ展示より



図書館イベント情報

★…児童・あかちゃん向け ●…大人向け

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来て下さいね。

各図書館の
連絡先

- 中央図書館 3983-7861
- 池袋図書館 3985-7981
- 駒込図書館 3940-5751
- 目白図書館 3950-7121
- 巣鴨図書館 3910-3608
- 千早図書館 3955-8361
- 上池袋図書館 3940-1779
- 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	7月	8月	9月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★3日・おはなしこうさく会 午後2時 ★16日・豊島岡女子学園中学高等学校による 読み聞かせボランティアおはなし会 午後2時	★6日・「子ども点字教室」～点字を書いてみよう、 読んでみよう～ 午前10時30分～12時30分※ 要申込 ★7日・こわいおはなし会 午後2時※	★4日・おはなしこうさく会 午後2時 ★17日・豊島岡女子学園中学高等学校による読み 聞かせボランティアおはなし会 午後2時 ★25日・ボランティアによるおはなし会 (としまらみち草の会) 午後2時
駒込図書館 (地域文化創造館)	土曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	●16日・おとなの調べる学習講座 午後1時30分～3時30分※ 要申込 ★30日・児童向け調べ学習応援講座 要申込	★6日・おはなしのはこ こわいおはなしスペシャル 午後1時30分～2時30分	★17日・敬老の日スペシャル 「おはなしをあげよう」 午後1時30分
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時30分	第3火曜日 午前11時	●6日・たなぼたスペシャル 午後3時30分 ★10日・巣鴨キネマ 午後2時 映画「古都」(16ミリ)	★10日・ほんのじかん こわいおはなしスペシャル 午後3時30分	★28日・ほんのじかん スライド 午後3時30分
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	●23日・おとなの調べる学習講座 午後1時～3時※ 要申込 ★30日・児童向け調べ学習応援 午前10時30分～12時※ 要申込	★20日・さくらんぼ かがくこうさく会 午前11時～12時※	
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分	第1水曜日 午前11時	★23日・たんぼぼえいかがい 午後2時30分 「おぼけのうんどうかい」(25分) 「きもだめしのぼん」(15分) ★30日・たんぼぼえいかがい 午後2時30分	★20日・おはなしたんぼぼ こわいおはなしスペシャル 午後2時30分 ★27日・たんぼぼえいかがい 午後2時30分 「てままとらやん」(17分)	★24日・たんぼぼえいかがい 午後2時30分 「竹取物語」(31分)
目白図書館 地下区民集会室 (※印は児童コーナー)	水曜日 午後3時	第1水曜日 午後2時	★20日・かきくけこうさくかい 午後3時	★10日・あいうえおはなしかい 平和普及おはなし会スペシャル 午後3時※ ★24日・あいうえおはなしかい こわいおはなしスペシャル 午後3時	
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分		★10日・スペシャル工作会 「アンモナイトのレプリカづくり」 午後2時～3時 定員20名(小学1年生以上) 要申込	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

図書館 タンテイ

対象:小学生

7月23日(土)～7月31日(日)
開館時～午後4時30分

ただし、7月25日(月)は池袋図書館と目白図書館が休館です。
26日(火)は千早図書館が休館です。

図書館クイズに挑戦して、きみも図書館タンテイになろう!
図書館にあるたくさんの本の中から答えを探し、認定証をもらおう!

それぞれの図書館のテーマは次の通りです。事前申し込み不要、参加費無料です。

中央図書館	SOS! 竜宮城救出大作戦!	乙姫さまからピンチを知らせる手紙がとどいた。5つのなぞをといて、のぞかれた竜宮城から仲間たちを救い出せ!
駒込図書館	まぼろしの桜をさかせよう!	クイズをといて、桜の花ひらをゲット!花ひらを5枚あつめてまぼろしの桜をさかせよう!
巣鴨図書館	じぞうトラベル	「じぞうトラベル」はじめました☆いろいろな乗り物にのって旅をしよう。行き先は、お楽しみに!
上池袋図書館	きたカミをさがせ!	としよかんのマスコット、カミがいなくなっちゃった!?暗号をといて、カミを見つけてね!
池袋図書館	めざせ三ツ星タンテイ! ～海賊からの挑戦状～	児童室にちらばる海賊からの問題を解いて、タンテイ手帳を完成させよう!君は何星タンテイかな?
目白図書館	ムッシュ、タイムマシンにのる!	ムッシュといっしょに、タイムトラベルに出かけよう!
千早図書館	海底図書館	海にはいろんな生きものや、ふしぎなことがいっぱい。楽しいことをさがしにいこう。

巣鴨キネマ 「古都」

監督 市川崑 製作:1980年 126分

主演 山口百恵、三浦友一、實川延若、岸恵子ほか

開場 巣鴨図書館地下ホール **日時** 7月10日(日) 午後2時～

対象 中学生以上(どなたでも)

定員 30名(先着) 申込不要

調べる学習を応援します!!

★児童向け調べ学習応援講座★

駒込図書館 7月30日(土) 午後1時30分～2時30分 **定員** 10名

- ・7月16日(土)より申込受付

<内容>図書館にある検索機OPACの使い方を説明します。クイズに答えて本の探し方のコツを知ろう。

上池袋図書館 7月30日(土) 午前10時30分～12時 **定員** 20名

- ・7月1日(金)より申込受付

<内容>外で収集してきた葉や花が何の植物なのか、図書館にある本や資料を使って調べてみよう。

※保護者は定員には含まれません。

●おとなの調べる学習講座●

<内容>

- ・図書館にある検索機OPACの利用方法を説明します。
- ・レファレンス例題を出題しますので、調べものをするときの解決方法を学べます。
- ・7月1日(金)より申込受付

編集後記
 この夏号から編集を担当させていただきます。高松です。
 四月に社会人になったばかりで、右も左もわからない状態
 でしたが、なんとこの図書館通信を発行することができて、とてもうれし
 3ページ目の「豊島区と目白図書館」を、お話しすることができて、とてもうれ
 た特別講演会で講師をしていただきました。普段、目白図書館には、四月に開催
 椎田先生のユニーモアたっぷりのお話ばかりから、これを機に目白図書館に
 みていただき、江戸川先生が現代のオタクと何か通ずるものがあるという感
 わってみたいと思います。

豊島区立図書館の開館日及び開館時間

館名	開館日及び時間	休館日	7月～9月の休館日
中央図書館	平日 午前10時～午後10時 土日祝日、祭日 午前10時～午後6時	第2月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月11日・22日 / 8月8日・26日 9月12日・23日
駒込図書館	平日 午前9時～午後8時 土日祝日、祭日 午前9時～午後6時 ※平日は、午前8時から資料の返却と、 予約資料の受取ができます。	第1火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月5日・22日 / 8月2日・26日 9月6日・23日
上池袋図書館	平日 午前9時～午後8時 土日祝日、祭日 午前9時～午後6時	第1火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月5日・22日 / 8月2日・26日 9月6日・23日
巣鴨図書館		第1月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月4日・22日 / 8月1日・26日 9月5日・23日
池袋図書館	平日 午前9時～午後7時 土日祝日、祭日 午前9時～午後6時	毎週月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月4日・11日・18日・22日・25日 8月1日・8日・15日・22日・26日・29日 9月5日・12日・19日・23日・26日
目白図書館		毎週火曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月5日・12日・19日・22日・26日 8月2日・9日・16日・23日・26日・30日 9月6日・13日・20日・23日・27日
千早図書館		第2月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	7月11日・22日・25日 8月8日・26日・29日 9月12日・23日・26日
雑司が谷図書貸出 コーナー	平日 午前10時～午後7時 土日祝日、祭日 午前10時～午後5時	第2月曜日 最終月曜日 第4金曜日 12月29日～1月4日	

※都合により変更になる場合があります。

駒込図書館
7月16日(土) 午後1時30分～3時30分
定員 10名

上池袋図書館
7月23日(土) 午後1時～3時
定員 20名

「子ども点字教室」

～点字を書いてみよう、
読んでみよう～

点字器を使用して点字を打つ体験、点
字に関する図書の紹介。

日時 8月6日(土)
午前10時30分～12時30分

場所 中央図書館5階会議室

対象 小学3～6年生。
複数人での申込み可。

定員 15名
申込み先
7月12日(火)午前10時から 点字図書館
電話で ☎3983-7864へ ※先着順